



北海道

入院患者と家族を支える・ボランティア団体
ファミリーハウス通信

2006年2月10日発行/No.6

発行：北海道ファミリーハウス
 責任者：事務局長 金田耕二
 060-0807札幌市北区北7条西6丁目
 TEL(011)716-4161 FAX(011)716-4162

第七回全国滞在施設ネットワーク会議開催

一月二十一日（九州大学病院）



主催者を代表して挨拶する福岡ファミリーハウス徳永理事長

病気の子どもと家族のため
 の滞在施設運営についての
 全国会議が、一月二十一日九州大学病院（福岡市）で開かれました。この全国会議は、年に一度滞在施設（ファミリーハウス）の運営に関わる団体、ボランティア、個人が参加

して開かれるもので、今年も七回目の開催となりました。
 七回目の今年も、NPOファミリーハウス（東京）と活動十周年を迎えた福岡ファミリーハウスが主催して行われ、全国各地から運営団体、ボランティアなど一〇〇名余りの参加があり、北海道ファミリーハウスから金田耕二・中村真一の二名が参加しました。
 会議は主催者代表挨拶のあと、第一部として七つの分科会が開かれ、限られた時間の中、活発な議論が行われ午後からの全体会議で報告されました。

- 分科会のテーマ
- ①資金の基礎整備について
 - ②人材の基礎整備について
 - ③病院、医療従事者との協働について
 - ④利用者さんとの関わりについて
 - ⑤ハウス内の安全衛生について
 - ⑥行政との関わりについて
 - ⑦外部団体との協働について



報告に立つ金田事務局長

分科会では、北海道ファミリーハウスの金田事務局長が「人材の基礎整備」で進行役を務め、ボランティア確保の観点から「現状と課題」提案」について全国各地からの参加者と議論を深めました。

午後は、福岡ファミリーハウスの十周年記念講演として、絵本作家「葉祥明」氏による「絵本をとおして心の平和を考える」と題した記念講演が行われ、多くの参加者から拍手が寄せられました。



絵本作家・「葉 祥明」氏の記念講演



九州大学医学部

第二部として行われた全体会議では、主催者から①全国ネットワーク組織の構築
 ②私たち（滞在施設）の目指すもの
 ・が提案され、参加者
 ・と多くの質疑を交わし、意思疎通が図られました。
 とりわけ、全国ネットワークの組織化に向けて具体的な検討が行われることになりました。

北海道ファミリーハウス「大家会議」開く



大家会議で運営方法について意見交換

一月三十日、札幌エールプラザにおいて、北海道ファミリーハウス運動に施設提供者として協力いただいているオーナーの皆さんの出席を得て、「大家会議」を開催しました。
 会議は冒頭、松本理事長

が日頃のお礼を述べ、引き続き金田事務局長からファミリーハウスを運営するためのマニュアルについて説明がなされ、出席者から利用者の利便性や現状の課題などについてボランティアスタッフも交えて意見交換し、今後も事務局とオーナーの連携を深めることを確認し終了しました。

会員数・口数 (H17.9.30現在)

正会員	29名	(72口)
賛助会員	979名	(1,247口)
法人会員	11件	(14口)

札幌市内のファミリーハウス滞在施設 (H18.1.31現在)

ボランティア提供14軒、ホテル：7社（厚生年金、メルパルク、札幌サンプラザホテル、クラークホテル・手稲ステーション・あさ野・都イン）などがあり、事務局スタッフもボランティアで取り組んでいます。